

県連ニュース

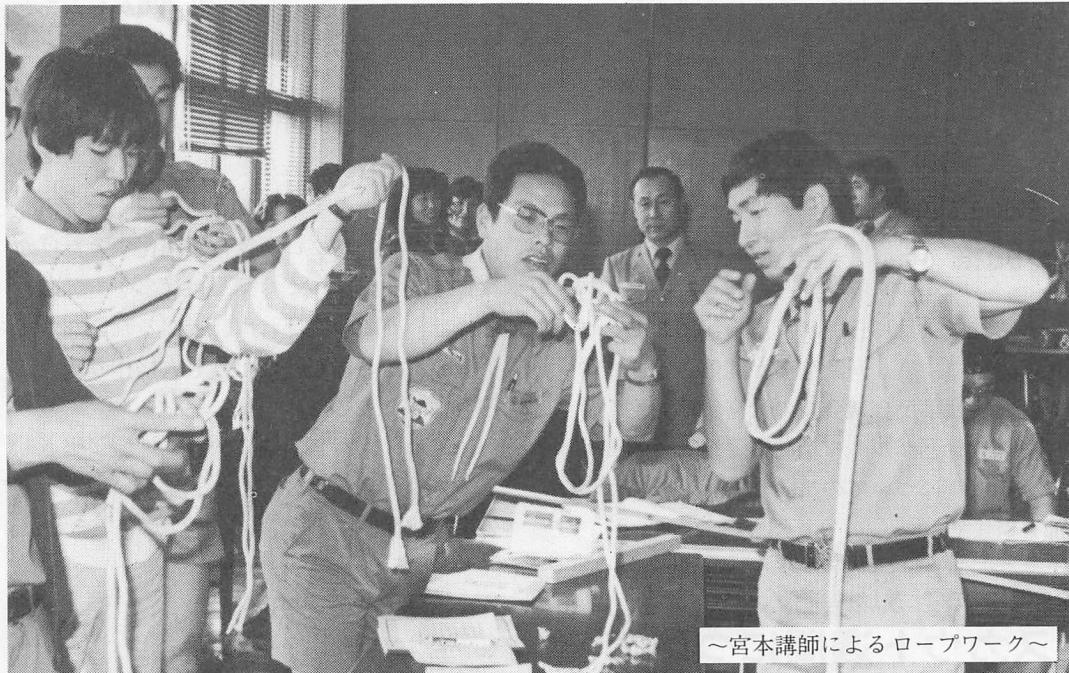


ボーイスカウト茨城県連盟機関誌

No. 3



ボーイスカウト活動のなかで結索法（ロープワーク）は、キャンプやハイキングに、技能章の取得に、必修の技能とされている。ボーイスカウト活動のみでなく、日常の仕事や生活になくてはならないものであり、とくに野外活動では、生活上必要性が高い。ボーイスカウトの指導者として、ロープワークの指導上、統一した理解と留意点が必要である。



58年度 県連主催 指導者実技研究会開催される

59年2月5日（日曜）県連主催による指導者実技研究会が、水海道市民会館で開催され22名が参加しました。

武田秀夫主任講師のもと、

1. シルクスクリーン印刷…坂本、堀江講師
2. ロープワーク（結索法）…富田・宮本講師
3. ソング（歌）…星野・知神・金子・山田

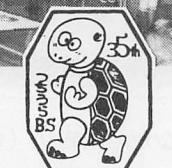
（昇）講師

により、全員が3つの実技を研究し、特にロープワークでは、結索法の歴史から、ロープの種類、進級課目のロープワーク、結びの特徴と注意点および各種の結び方を実修しました。

シルク印刷では版の作り方の講義の後、実際にTシャツやハンカチに印刷し、ソングでは、スカウトソングを楽しく歌う実修と、熱心に、実りある1日でした。



土浦ボーイスカウト 誕生35周年記念式典 開催される



35周年シンボルマーク
1983.11.23

菊の香かおる昭和58年11月23日、土浦市霞ヶ浦文化体育館において、昭和24年、土浦市にボーイスカウトが呼々の声をあげてから丁度35周年の歴史を刻み、その記念式典が、盛大に挙行されました。

県連講演会と 指導者研修会 の開催



講演する大宮先生

さる58年11月13日、水戸市市民研修センターにおいて、第6回講演会が開催され、青少年育成茨城県民会議会長の大宮録郎先生の「青少年教育とグループ活動の促進」と題して青少年教育についての講演があり、45名が参加されました。

昭和59年度 茨城県連盟 スカウト週間について

—実施要項—

1. 主 旨

子どもの日を中心とした1週間をスカウト週間と定め、県内のボーイスカウトが集中的に地域社会への奉仕活動を行うとともに、広くボーイスカウト運動への正しい認識を高める。

5,600名のスカウト1人1人の実践活動が、より良い社会を作る大きな輪になることが望まれる。

大会のテーマは、「スカウトが築く明日の土浦」…35年の歩みを振り返り、歴史の中で自分の存在を確認し、先人に感謝し、これからスカウティングへ新しい心で出発する。

市内各地の兄弟スカウトと友情を交歓し、明日への一歩をふみ出そう！

式典は、隊旗、シンボルマークの入場にはじまり、おきて、やくそくの唱和、古谷野大会長の式辞、音でつづるスカウトの広がりはエレクトーンなどによる、楽しい広がりがあり、つづいて、名誉大会長の箱根土浦市長の式辞や表彰、来賓祝辞などにより、厳肅のうちに、音響効果や、ライト効果を充分活用した、楽しい式典であった。

アトラクションとして、各団のゲームなどで式典も盛りあがりました。

先生のお話しの中に、我々指導者が銘記すべき内容が数多くありました。

とくに、指導者の「質」の問題や、行事や指導者が組んだプログラムを消化するだけが教育ではない。いくら楽しい行事をしても「しつけ」ができなければ、単なる制服を着た子供である。専門技術よりも人格作りが大切と力説されました。

午後は、A、Bの班に分れ「地域に根ざしたスカウティングの進め方」について、大宮先生の講演をもとに、全員で話し合いました。

2. スローガン

「より良き社会をめざして」

3. テーマ

「美しい日本を作ろう」

4. 期 間

昭和59年4月30日～5月6日

5. 活動の内容

隊・団はそれぞれの実情に応じて、スカウト週間にふさわしい活動を行う。

(スカウト週間は、日本全国のスカウトが毎年、子供の日を中心に、地域社会のために奉仕活動を実施しています。)

リュニオンの開催 (同期会)

〈茨城県連、研修所・団委員
長特修所修了者のつどい。〉

昭和58年11月13日、水戸市のホテル「パレス」で、各ウッドバッジ研修所と団委員長特修所の修了者とそのスタッフが、一同に集まり、思い出を語り合って楽しい一夜をすごしました。

本県では、研修所カブ課程が11期、ボーイ課程が9期、シニア課程が3期、と団委員長特修所が2期で、600余名の方々が修了されましたが、その修了者のつどい(第1回)が開催され、51名が参加されました。

橋本理事長のあいさつにはじまり、吉田副理事長が、スタッフを代表してのあいさつがあり、来賓として、埼玉県連盟の浅倉一吉先生も遠路を参加下され、ご祝詞をいただきました。浅倉先生は、カブスカウト課程の第1期、第2期の所長として、本県連盟の研修所開設のご指導をいただき、カブ課程が第11期まで開設できたのも、浅倉先生のお力添えの賜ものと思います。

続いて、相馬順敬リーダートレーナーの「かんぱい」の音頭でパーティーに移り、楽しかった事、きびしかった事など思い出話しに花が咲きました。

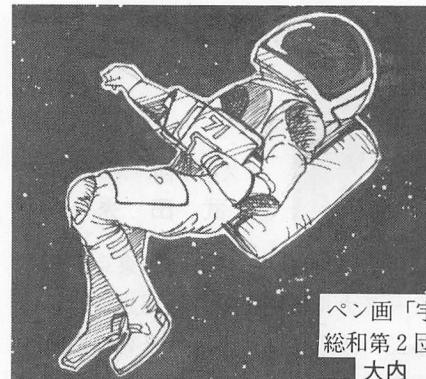
山田隆士理事の司会により、参加全スタッフと、各研修所、特修所の同期生が、それぞれ、一言づつ、当時の思い出などを語り合って、再び逢う事を誓いました。



あいさつする浅倉先生

《リュニオンとは?》

REUNION……一般では、再会・再会合・親睦会の意味があり、ボーイスカウト用語では、研修所、実修所などの同窓会・同期会の意味で広く使われている。



ペン画「宇宙遊泳」
総和第2団カブ隊
大内 一浩君

団紹介

私たちの団

常陸太田第2団

団委員長 菅原定男

我が団は、岩瀬第1団の故佐野瑞治先生(元県連副連盟長)の薰陶を受けて、戦前よりこの運動を続けており、戦後初期登録の昭和25年以来、地道に地域の青少年の育成発展を願いつゝ、スカウト活動を続けて参りました。財政面では市の補助とライオンズクラブの育成援助をいただき、活動の大きな支えとなっております。

1地区では、日立1、3団と共に歴史ある古き団として、今後、こうした期待にそむくことなく多くのスカウトを社会に役立つ人間として送り出していきたいと願っております。

しかし、この地域は、一部に封建的な面もあるが、それにさからわず1つ1つ良い事を取り入れ、地域の向上と、青少年の育成に役立つよう、「ちかいとおきて」の実践に、スカウトとともに指導者も明日に向かって進みたいと心がけております。

スカウトひろば

世界ジャンボリー 視察団だより



牛久第1回
武田秀夫

昭和58年7月11日、午後2時、東京シティエアーターミナル特別室での結団式で、日連寺尾理事長、渡辺総長その他の来賓の激励を受け、感謝しつゝ成田に向うためリムジンバスに乗り込んだ。

成田から定刻通り、日航012便にてバンクーバーに向け飛び立った。

バンクーバ着後、エアカナダ機に乗りかえロッキーを越え、カルガリーへと向った。

カルガリー空港では、スタンピードのお祭り中であり、カナダの民族音楽と、おどりで歓迎してくれた。

そのカルガリーを後にバスの人となり、一路トランス・カナダ・ハイウェイを時速100キロのスピードで突走る。

道路は一直線、ロッキー山脈に吸いこまれるように、多くのキャンピングカーの往きかう中をバンフの町へと進んだ。

ホテルに到着したのは夕刻近くであった。

このスプリングホテルは、観光地バンフの要ともいえる存在で特徴ある緑青色の三角屋根をのせた城砦のような建物が濃い針葉樹林の中にそびえたち、豪壮な周囲の山々と張りあっているように見えます。

本当にすばらしい光景でした。

7月12日、私たちはホテルから約40キロメートルはなれた、カナダ、アルバータ州カナナスキスのジャンボリー会場に向った。

会場には世界ジャンボリーのシンボルタワ

ーを中心とした各国の展示館が立ち、周囲には各参加国旗がひるがえるなど世界ジャンボリーの雰囲気が感じられました。

日本派遣団の柳瀬派遣団長や野田氏(日連)の出迎えを受け、日本派遣団のキャンプサイトを訪問し、日本から持参した慰問の品を渡した。

我々のために、この日はジャパンデーが準備されており、日本のスカウトはハッピ姿で私たちを迎えてくれました。

ジャパンデーには、キャンプチーフを始め各国派遣団指導者も多数招かれており、日本から視察団訪問を記念して原田視察団長からキャンプチーフに記念品が贈られた。

レセプションでは日本派遣団手作りのソーメンや団子、やき鳥、羊かんその他色々のメニューなどがあり、なごやかな歓談のうちに各国の指導者と親交を深めたり、スカウトたちの語らいなど、また、私がWB研修所で教えた大阪の前川氏や、茨城からの菊地君たちと記念写真をとったり、大変よい思い出となりました。

日本派遣団自慢の炭抗節や歌などがあり楽しいひとときを過すことができて、素晴らしいジャンボリー訪問がありました。

7月13日はバンフ国立公園の中でも随一といわれるカナディアンロッキーの美しい湖「シャトーレイク・ルイーズ」の見学に向った。湖の背後にあるヴィクトリア氷河から流れ落ちる、手を切るような冷たい暗緑色の水をたたえ、背景には冰雪をきらめかせたヴィクトリー山がくっきりとそびえ、湖をとりまくシーダーと相まって神秘的という形容そのもの吸いこまれてゆくような、あるいは、まさに息をのむという美しさでした。

湖岸には赤、黄色とりどりの花が咲き乱れ素晴らしい庭園でした。

その後、バスにてカルガリーに向う。

カルガリーは丁度スタンピード祭の最中で原田視察団長主催の夕食会が、タワーレストランで開かれ、柳瀬団長以下指導者を招待し労をねぎらった。

この祭は毎年7月の第2日曜に始まり、カウボーイの祭典で、インディアンたちのロデオ、投げなわ、牛の捕獲など典型的なカウボ



たい寒訓練

桜第1団カブスカウト

阿部 真希人

ぼくは、カブスカウトで一番、たい寒訓練が思い出に残りました。

去年までいた上尾（埼玉県）のカブスカウトでは、冬のキャンプはなかったので、今年の冬のキャンプがはじめてでした。

だから寒くてねむれないのではないかと思ったり、雪の中のハイキングはだいじょうぶだろうかなどと思つたりして、しおりを何度も見なおしていました。

でも、目的地へいってみると、部屋の中はだんぼうがきいていてあたたかかったし、ハイキングも結構つかれませんでした。

それにハイキングで野生の動物の足あとをたくさん見つけたときや、ソリで山の急しゃ

ーイの競技が行なわれていた。

会場ではジャンボリー参加国スカウトの招介など国際色豊かなものがあり、回りは数百軒の屋台や遊び場が作られて、一大遊園地となっていた。

こゝでカナダスカウトたちと記念写真を撮ったりしてスタンピードの夜を楽しんできました。

面をすべてのことや、ソリの底がわれて、おしりにつきささりそうになったことが、いまでもありありと思うかべられます。

ぼくは、なんとなくきびしいようなので、ボーイ隊へ進級したくないと思っていたけれど、たい寒訓練がとてもおもしろかったので「ボーイ隊へいったらもっと楽しいことがありそうだなあ」とか「ボーイ隊にいけばもっといろいろなことが、教えてもらえるだろうなあ」と思い、ボーイ隊にいこうとかたく決心しました。

お母さんには「はっきりしない決心なんだから」とわらわれてしましましたが、学校とか近所の友達などから学ぶことのできないことを、ボーイ隊でいっぱい教えてもらい大きくなりたいと思いました。

ぼくにとって、たい寒訓練は、寒いところで訓練するというだけでなく、ボーイ隊へ進級する決心をかためるためのとってもよいけいけんになりました。

ぼくは、このけいけんをいかして、大人になんでもスカウトで習ったことを生かし、みんなの役に立つ、りっぱな人間になりたいと思います。

【原文のまま】

「私 の 組」

桜第1団デンマザー

橋 本 朋 子

言葉と知恵にハンディを持つ小柄なスカウトが私の組にやって来た。彼の病気について何の知識もない私、恥かしいことに障害を持

つ人と接するのは始めての経験である。自分の根からののんきさから、やってみれば何とかなる、やるしかない、ハンディある子供の先生は身心共に健康な子供達が一番、私の組のスカウト達はかならず満足ゆく解答を与えてくれるだろう、彼等を信じまかせよう。と極めて自然のままに受け入れ、自分の不精さ

を弁護しつつスタートし活動して来た1年が終った。毎回々を重ねるごとに得る手ごたえこれが本人のみでなく組の仲間に大きく強く反響して来る。最初の頃「自閉症」という特有のフラフラ歩き、奇声を発する、手を打ちならす、視線を合わせることなく感情の無いオーム返しの返事、これらの行動が健常児達と共に生活することで、彼等を見、真似をしつつ目に見えて少なくなつてゆく。

ついこの前の耐寒訓練キャンプに於ても、素晴らしい色々なことがあった。雪の中でのセレモニー、長ぐつの底から伝わる痛い程の冷気の中弱音もはかず逃避もせずに仲間といっしょに整列し耐えていた。がまんする、停止行動をすることは彼にとって目ざましい進歩である。このキャンプは又親の手元を離れて一人参加するという初めての経験も、回りの大人の不安や危惧もなんのその無事楽しく行った。彼本人のがんばりもさることながら、この1年間の組のスカウト達の成長は驚ろく程である。彼等は自發的に彼の世話をし、進んで自然の内にスカウトの「ちかい」「さだめ」を実践してゆく。7人の子がその中に幼き者を得ることによって筆舌つくしがたい日々の行動を行う。正にお互の人格形成の為に投げられた宝物のように、健常児はより健やかに、彼には今まで気づかなかつた、その機

会さえなかつた未知数的可能性の発見に、そしてDMである私は、目を見張るばかりのスカウト達の成長を見、知る喜びを味わわせてもらい三者三様、大きな貴重な時の経過を得て来た。彼を特別扱いすることなく同じ事を行う、その機会を与えることの出来たスカウト活動は、新たな彼の成長であり発展であったと思う。これは又彼が素晴らしい仲間に恵まれたことも幸いであり、彼を迎えることの出来た私達も伴にりっぱに活動して来た、と自負する。ハンディキャップスカウトを迎えることでリーダー諸氏には測り知れない配慮があったと思う。彼の担当DMである私の行動を暖かく見守ってくれ、彼のご両親もハラハラすることも多々あるだろうに黙ってまかせて下さる、信頼してくれる人々の力強いバックの中、今1年間の成果を感じている。

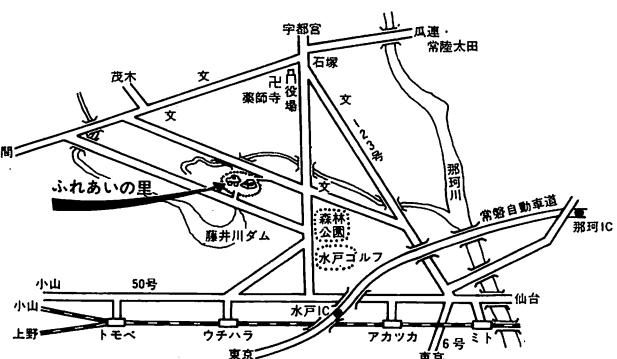
ハンディの種類によっては色々と事前の知識も必要であろうが、私の場合、何もかも初めてということで先入観を持たずスカウトと一緒に手探りで行動することによってより強いまとまりと発展が生れた。人間関係というものに例題、事例はあり得ない、このハンディキャップとの活動に於ても同じだと思う。その団、その隊、そのスカウトによる独自の行動、思考にのみまどわされない行動これが今の彼のスカウト活動であると思う。

野営場紹介

常北家族旅行村 藤井川ダムふれあいの里

- テントキャンプ場（開設期間 6月～9月）
 - テント 5人用 30張（常設）150人収容
 - 炊事場2棟 トイレ1棟
 - 野外テーブル15卓
 - ファイヤーサークル1ヶ所

●お申込み・お問い合わせは
茨城県東茨城郡常北町大字上人野
TEL 029288-5505
常北家族旅行村管理事務所



富士スカウトの誕生を願って —進歩委員会—

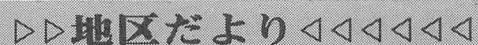
県連進歩委員長 宮本忠雄

ボーイスカウト教育の二大制度（班制度と進歩制度）のひとつ進歩制度に関することを担当するのが進歩委員会です。

58年は進歩二規定（「菊・隼及び富士スカウト面接・認証に関する規定」並びに「技能章考査員及び技能章指導員の委嘱に関する規定」）を定めることにより、スカウトの進級や技能章取得に必要な体制づくりをすることが出来ました。また、59年1月には各団各隊の協力を得て『進歩状況調査』と『進歩制度

に関するアンケート調査』を実施することにより、県連盟内の進歩に関する実態を把握し今後の方策や指導の参考にしようとしています。しかし、これらの体制や方策ができたからといってスカウトが進歩するものではありません。やはり、そこにはスカウト自身が進歩に対する熱意と努力をもって挑戦すること、そして、それに対する適切な指導ができる隊長があつて達成できるものではないでしょうか。

スカウト諸君、そして指導者の皆さん、ボーイスカウトは菊スカウト章を、シニアースカウトは富士スカウト章を取得するように頑張ろうではありませんか。



第7地区

地区委員長 千野欣重

さいばらきの西端、栃木・埼玉両県との県境に位置し東北本線の通過する唯一の古河市から鬼怒川沿いの水海道市まで全地域ではないが3市2町で活動しているのが我が第7地区的分布図である。地区内の『あしあと』をたどってみると昭和35年にうぶ声をあげた古河第1団を中心に翌年に境第一団が発団し当時は猿島第1団として登録）その後昭和45年には岩井第1団が発足。そして総和第2団が昭和52年に誕生し今年結団3周年を迎える水海道第1団と続いている。現在この5団のそれぞれの隊は各リーダーの指導のもとにそれぞれの特色をうち出し友交を保っているが、今、地区内で最大の悩みはスカウト人口の減少である。宗教団体が中心母体の古河第3団職域で組織された総和第1団の相づぐ活動の中止が大きな原因となっている。それぞれ活動の中止については理由があると思うが、幸いにして古河・総和の友団ではスカウトに対して受け入れ体制が出来ているので地区としても積極的に努力していきたい。工場の進出

に伴ない他県からの移住者が多く入隊しているケースも各団の特徴でもある。県内でも誇れる境第1団のスカウト会館を中心にして、各団との友交をより深めることを目的とし訪問するラウンドテーブル。年2回を目標にマンツーマン方式による中味のこい救急法の訓練。またスカウトの交流を兼ねたスポーツフェスティバル。「挑戦」をテーマに実施したサッカー大会等。これが昭和58年度の主な地区行事でした。又59年度の主な予定としては4年に1度開催している地区キャンポリーが最大の行事となることだろう。大会に向けてのプロジェクトチームを結成し活動も始めた。また指導者講習会の開催も年3回に回数をふやし多くの人達にスカウト運動を知つもらう意気込みでいる。或いは長期計画ではあるが近隣の未組織の町村へも呼びかけて、スカウト人口を増やす働きかけも地区をあげての目標でもある。地区内のリーダー間の人間関係もスムーズで地区の運営に関しては何のトラブルもなく極めて順調なものも特徴の一つといえる。

●昭和58年度第7地区加盟状況

●団 数	5団	●隊 数	15隊 3班
●加盟員数	446名	リーダー	71名
		スカウト	375名

県連行事の お知らせ

●ウッドバッジ研修所 開設のお知らせ●

昭和59年度の茨城県連盟で開設する「ウッドバッジ研修所」は5コースを予定しておりますので、今から、都合の良い期日を選んで入所して下さい。(指導者養成委員会)

(1) カブスカウト課程茨城第12期

日時 59年4月27日(金曜)

～4月30日(振替休日)

場所 水海道市 県連指定野営場

「ロンドの森」

(2) ボーイスカウト課程茨城第10期

日時 59年5月3日(祭日)

～5月6日(日曜)

場所 上記「ロンドの森」

(3) シニアースカウト課程茨城第4期

日時 59年5月3日(祭日)

～5月6日(日曜)

場所 上記「ロンドの森」

※(2)、(3)は同日時・場所で併設して実施されます。

(4) カブスカウト課程茨城第13期

日時 59年8月11日(土曜)

～8月14日(火曜)

場所 上記「ロンドの森」

(5) ボーイスカウト課程第11期

日時 59年8月11日(土曜)

～8月14日(火曜)

場所 上記「ロンドの森」

※(4)、(5)についても同日時・場所で併設して実施します。

以上の5コースは、すべて、3泊4日で、野営によって実施されます。

くわしい内容、申込みなどについては、開設の20日前位に各団に通知いたしますので、期日までに申込み下さい。

●原稿募集!!

4ページ、5ページはスカウトのひろばです。機関紙第4号の原稿を大募集しています。カブ、ボーイ、シニアー隊員、父兄も、大いにご投稿下さい。

●送り先

〒310 水戸市緑町1-1-18

県立青少年会館内

ボーイスカウト茨城県連盟あて

(20字×20の原稿用紙を使用のこと)



編集後記

本当に長かった冬も、やっと終りをつけ、我々にとって、活動の季節がやってきました。

第3号は、武田さんの世界ジャンボリー視察団だより、桜第1団の橋本デンマザーの「私の組」と題した、ハンディを持つスカウトが組に入ってきて、色々と可能性を発見された記事を読んで、感心しました。

阿部君の「たい寒訓練」では、ボーイ隊に上進する決意があり……よかったなあとthoughtしました。

実技研究会、土浦35周年、県連講演会、研修所修了者のつどいなど、県連行事についてなどを掲載しました。

スカウト週間も間近です。皆さまの身近にあった事を投稿して下さい。

より楽しいニュースをしたいと思いますのでよろしくお願いします。 (堀江)

第3号 昭和59年3月31日発行

発行／ボーイスカウト茨城県連盟

理事長 橋本千代寿

編集／県連広報特別委員会

〒310 水戸市緑町1-1-18

茨城県立青少年会館内

電話 0292-26-8482